

当院にて、2022 年 9 月～2025 年 12 月までに修正排卵周期凍結融解胚移植（自然排卵周期凍結融解胚移植）を実施された患者様へ

1. 研究課題名

完全自然排卵周期凍結融解胚移植と修正排卵周期凍結融解胚移植の、LH 値および hCG 使用の有無、黄体補充開始と移植日調整による臨床妊娠率をの後方視的解析

2. 研究目的・方法・研究期間

研究目的

修正排卵周期（modified-NC）凍結融解胚移植（mNC-FET）は、自然排卵周期 FET と同等の妊娠成績を維持しつつ、来院回数軽減などの利点を有する方法として広く用いられている。一方で、mNC-FET の方法は報告によって様々であり、特に LH サージ開始後の hCG 投与や黄体補充開始時期については一定の見解が得られていない。Litwicka ら（2017）は自然 LH サージ後の hCG 投与による妊娠率低下の可能性を報告（臨床妊娠率：hCG 使用群 36.4% vs hCG 非使用群 64.7%）している。しかし、Johal ら（2021）は LH サージ後でも FET 日の調整など適切な管理下では妊娠率低下を認めなかったと報告している。2022 年 10 月から 2025 年 12 月に当院で行った完全自然排卵周期 FET と修正排卵周期 FET の、LH 値および hCG 使用の有無、黄体補充開始と移植日調整による臨床妊娠率を後方視的に検討した。

方法：後方視的コホート研究

研究期間：2022 年 9 月～2026 年 11 月

3. 研究に用いる情報の種類

診療情報：治療歴、検査結果、薬剤情報、予後

※生年月日、カルテ番号、住所、氏名等、個人を特定する情報は研究に用いません。

4. 外部への情報提供

第 71 回日本生殖医学会 学術講演会にて研究発表予定

5. 実施責任者

三木玲奈 医師